

用瀬町エコツーリズム連絡会の活動について

～流しびなの里をめぐるエコツーリズム～

用瀬町エコツーリズム連絡会

1

流しびなの里をめぐるエコツーリズムとは

- 現在、地域ぐるみで自然環境や歴史、文化などの地域固有の魅力を観光客に伝えることで、その価値や大切さを理解し、保全に繋げていくことにより地域の活性化を図るという「エコツーリズム」の取り組みが全国的に進んでいます。
- 流しびなの里をめぐるエコツーリズムとは、用瀬アルプス（三角山から洗足山に至る山系）周辺を本地域の特徴的な観光資源と位置付け、優れた自然環境の保全を基本に観光客の誘客を図るとともに、上方往来で栄えた用瀬宿や室町時代から継承されている用瀬のひな送りなどの貴重な文化・歴史資産の価値を理解し、未来へと継承する取り組みを推進する中で、地域の一層の観光振興と活性化を図ろうとするもの。

三角山

おおなる山

洗足山



2

女人堂・三角山神社



女人堂



三角山神社本殿

【三角山】

- ◆別名 頭巾山
- ◆三角山神社奥宮本殿(市文化財)、女人堂(戦前まで女人禁制の山)
- ◆山岳信仰の山、天狗伝説などあり
- ◆山頂に景石・天狗石・重石・富士石・万灯石の巨石あり
- ◆7月23日「お山さん」の例祭行事
- 地元団体による維持管理作業の実施

3

景石城跡



【景石城跡】

- ◆別名磯部城(磯部氏の居城)
- ◆豊臣秀吉鳥取攻めの折攻略される
- ◆築城約650年前 廃城1615年
- 地元団体による維持管理作業の実施

4

ミツバツツジの名所



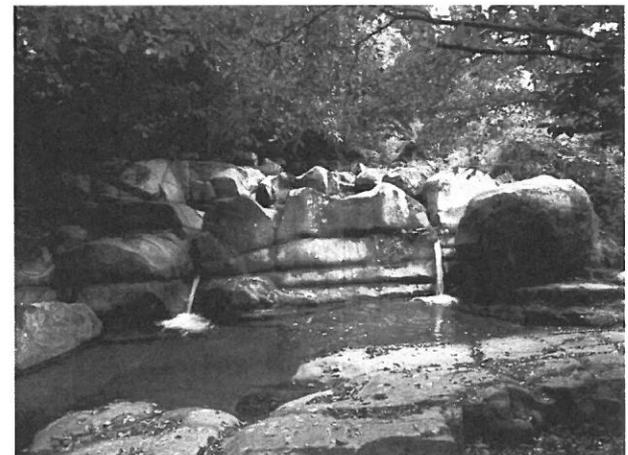
【一の谷公園・愛宕山】

- ◆ミツバツツジの名所
- ◆開花時期 4月中旬
- ◆ボンボリ飾りを地元団体が実施
- 地元団体による維持管理作業の実施



5

赤波川溪谷おう穴群



【おう穴群】

- ◆川の流れて動く小石などに削られ、大小様々な窪みを形成
- 地元団体による維持管理作業の実施

6

洗足山 一等三角点



【一等三角点】

- ◆ 標高 736.3m
- ◆ 霊石山、久松山、東仙、氷ノ山、三国山、籠山等 因幡の山や日本海まで眺望できる。
- 地元団体による維持管理作業の実施



洗足山 県自然環境保全地域



【洗足山県自然環境保全地域】

- ◆ 標高500m～700m
- ◆ ヒメコマツ(五葉松)の自生地、シヤクナゲの群生地
- ◆ 指定面積 23.0ha

用瀬町エコツーリズム連絡会

- 目的 「流しびなの里をめぐるエコツーリズム」の推進
用瀬の地理的特性や自然環境、歴史的文化資産などを活用したエコツーリズム事業による地域活性化を推進していくことを目的とする。
- 構成会員
用瀬アルプス会、洗足山遊歩隊、もちがせ上方往来散歩径、おう穴愛護会、愛宕会、一の会、景和会、用瀬運動公園、地域おこし協力隊
- 設立 平成26年12月10日

9

活動内容

- 登山道の維持整備、管理とパトロール活動
- エコツアーの実施
- 先進地視察およびガイド技術講座の開催
- エコツーリズムのガイドマップ作製とPR活動
- 行政(鳥取市、鳥取県)との協働による地域活性化



10

登山道の維持整備、管理とパトロール活動



看板の設置作業



登山道の整備作業



11

エコツアーの実施



【第1回 用瀬山系トレイル交流大会】

- ◆10月18日(日) 3コースで実施
- ◆参加者 アルプス縦走61名、
三角山登山55名、
おう穴散策22名

(縦走はキャンセル待ちが出るほど人気)

- ◆登山経験豊かな60歳以上の方が大多数

【第2回 用瀬山系トレイル交流大会】

- ◆4月24日(日) 2コースで実施
- ◆参加者 アルプス縦走66名、
三角山登山59名
- ◆初心者から上級者まで、幅広い参加者



12

流しびなの里をめぐるエコツーリズム推進事業の概要

【実施期間】

平成28年度～平成30年度（整備事業）

【実施体制】

地域住民や地元の団体で組織された「用瀬町エコツーリズム連絡会」と鳥取市が協働で進めていく

【事業概要】

- ①本格的な登山客の受入れに向け、登山者の安全安心を確保するための登山道等と利便施設の整備
- ②エコツーリズムとしてのメニューづくりや情報発信
- ③登山者を受け入れる体制づくり、人材育成

17

【平成28年度の計画】

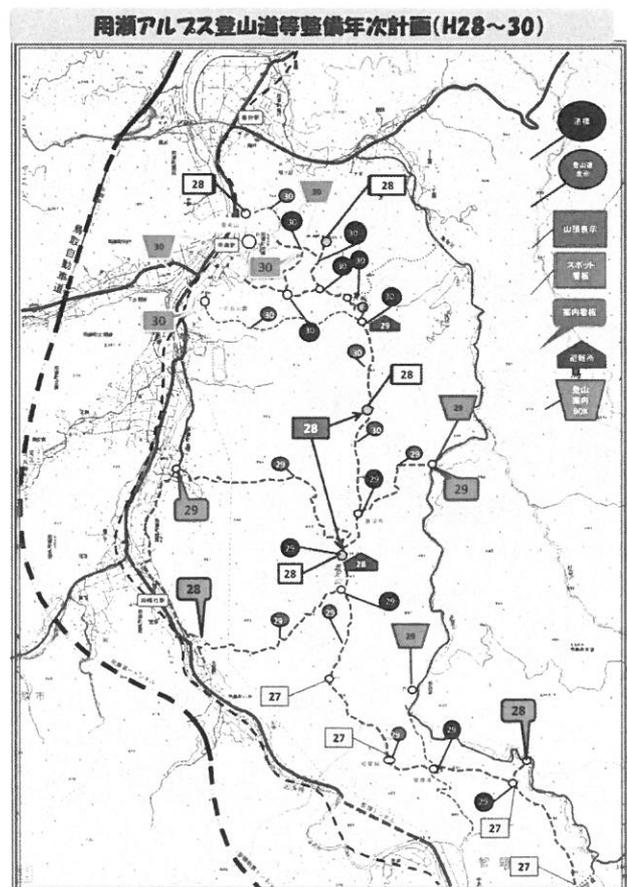
- ・ 山頂表示 2ヶ所
- ・ 案内看板 2ヶ所
- ・ スポット看板 4ヶ所
- ・ ベンチ設置 5ヶ所
- ・ 避難小屋 1棟

【平成29年度の計画】

- ・ 道標 10ヶ所
- ・ 案内看板 2ヶ所
- ・ 登山届BOX 2ヶ所
- ・ 避難小屋 1棟

【平成30年度の計画】

- ・ 道標 10ヶ所
- ・ 案内看板 2ヶ所
- ・ 登山届BOX 2ヶ所



18

目 標

- 3年後の年間登山者(交流人口) 5,000人を目指す。
- 智頭町や佐治・河原地域との連携により広域的なエコツーリズムの舞台として、地域とともに育てていく。
- 交流人口増加による地域への経済波及効果を促進する。

19

今後の課題

①次世代の活動の担い手となる人材確保

地域住民に愛されている山や自然を、住民が自らの手で守ってきたが、会員の年齢が高くなってきており、登山道などの整備作業に参加できる人数が減少している。数年後もこの活動を継続するために、単純に登山が好きだけでなく、ボランティア精神を持った若手を取り込んでいく仕掛けが必要。

②広域的なエコツーリズム活動への発展

平成26年12月に地元の団体を中心に設立し、用瀬アルプスを活動の舞台としてきたが、より多くの自然環境を観光資源につなげていくための取り組みも必要。

用瀬町だけでなく、河原町・佐治町を含めた鳥取市南部地域でもエコツーリズム活動を展開することや、智頭町との連携によって、より一層の地域活性化を図る。

20